

「未来を創るのは子供たち ～一人ひとりが輝くために～」 教務主幹

先日の学芸会には、多数の保護者の皆様・地域の皆様にご来場いただき、ありがとうございました。子供たちは、いざ舞台に上がる緊張、舞台に上がる楽しみ、無事演じ終えてほっとした安堵感など、様々な表情を見せていました。二学期は体育学習発表会と学芸会という大きな行事が二つもありました。準備も含めて一人一人が、自分の成長につながる機会になったと感じています。気付けば師走になり、今年も残り一か月ですね。

さて、わが国が目指すべき未来社会の姿として内閣府が提示した「Society5.0」では、これからの社会を担う人材育成システムの方向性として、「同質性・均質性のある一律一様の教育」から「多様性を重視した個別最適な学び・協働的な学び」への転換が示されています。授業でも Teaching（教える授業）から Coaching（主体的に学ぶ子供の伴走をする授業）へと、子供の多様性に合わせた変化が求められています。

そんな中、松庵小学校の中でも一昔前の様子とは異なる、様々な違いが見られます。例えば先日の学芸会では、金曜日の児童鑑賞日が終わった後の、一人の児童の「悪役の登場シーンでスモークを使ったらどうかな？」という発言で土曜日の保護者鑑賞日では演出が変わりました。主体的に考え発案した子供の思いが、形になりました（以前なら、思っても先生に言えなかったり、直前の変更は認められなかったりしたかもしれませんね）。10月の研究授業（3年生の算数）では、掛け算の暗算の方法について様々な方法が発案されていました。決められた方法を一齐に習得するのではなく、一人ひとりが考えたやり方が認められていました。教え込まれたことより、自分で考えたやり方の方が身に付くものですし、生活に生かされるものです。

時代の変化はいつだって急です。昔から大切にされてきた、学校だからこそ学べる「仲間とのかかわり」や「集団生活の良さ」は残しつつ、一人ひとりによりスポットライトが当たる教育を目指していきます。今月は個人面談があります。児童がより輝くための有意義な時間にできればと思いますので、よろしくお願いします。

「松庵小の特別支援教育について」 特別支援コーディネーター

昨年度から松庵小学校全体の新しい取り組みとして、全学年に特別支援理解教育を行う時間を設けています。現在、様々な所で特別支援教育やインクルーシブ教育（誰一人取り残さない教育）という言葉を目にしたり耳にしたりしているのではないのでしょうか。

私たち教員は、特別支援教育は特別支援学級や特別支援教室に通う子供たちの特性を理解して支援することだけではなく、世の中には様々な考え方の人がいることを知ろうとしたり、相手に興味をもって理解をしようとしたりする相互理解する気持ちが根本にあってほしいと願っています。各学年の発達段階に合わせた授業を教員が考え、全クラスで実施をしました。今回は2年生の授業内容を一部紹介したいと思います。

2年生は、わかたけ教室の先生が作成した絵本を使用して学習を進めました。困

っている内容を紹介した後で、もしもそのようなお友達がいて困っていたら、どのように接するかを話し合いました。子供たちは決して他人事と捉えず、何通りもの方法を一生懸命考えて発表していました。授業の最後に子供たちから「人は自分とはちがう性格でできているから、相手の気持ちを聞くことが大事だと思った。」などの感想が上がりました。このような教育活動を今後も継続していきたいと思います。

抽象的な言葉が分かりにくい子

感情のコントロールが難しい子



- ・分かるまで教えてあげる。
- ・何分？などと、くわしく聞いて教えてあげる。
- ・すこし教える。サポートする。

- ・何がいやだったのと聞く。
- ・クールダウンさせてあげる。
- ・先生に力をかりる。
- ・そっとしておく。